

平成 28 年度 岡山大学大学院法務研究科  
法学既修者入試 C 日程 試験問題

## 刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

### 解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、【問題 1】と【問題 2】がある。配点は、【問題 1】が 60 点、【問題 2】が 40 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、【問題 1】用と【問題 2】用の 2 枚が配布されている。問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 次の各設問に答えなさい。解答用紙の冒頭に【問題 1】と記入すること（解答順序は問わないが、設問番号を書くこと。また、2問とも解答すること。）。

〔設問〕 1

XはAを殺害しようとして、「毒薬」と書かれた瓶に入れられていた薬品を毒薬だと思ってAに飲ませた。しかし、Xが飲ませたものは、毒薬ではなく、Aに死亡の危険性は全くなかった。Xの罪責を述べなさい（特別法違反の罪を除く）。

〔設問〕 2

Bは、某日、Y宅敷地内からY所有の自転車を窃取し、自宅の庭に無施錠で置いていたところ、Yは、窃取された翌日、B宅庭で、盗まれたY所有の自転車を発見し、これを無断で持ち去った。Yに窃盗罪が成立するかどうかを述べなさい。

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】 次の事例を読んで、設問に答えなさい。解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に【問題2】と記入すること。

次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

【事例】

- 1 Xは、覚せい剤取締法違反（譲渡）の被疑者として逮捕された。その後、検察官Pの取調べを受けていたXは、事件への関与について否定し、また、覚せい剤の仕入れルートについて尋ねられると、「話したくない。」と述べて供述を拒否した。
- 2 Pは、Xが暴力団構成員Yと頻繁に会っていたという情報を得たことから、Yが事件に関与しているのではないかと考えた。そこで、Pは、取調べにおいて、Xに対し、「あなたに覚せい剤を売らせているのはYではないのか。覚せい剤事犯は、上位者を処罰しなければ根絶できない。あなたが改悛の情を示せば、起訴猶予にすることもできる。Yの関与について正直に述べた方が良い。」と言って供述を促した。これを聞いて、Xは、不起訴になることを期待して、「ではお話しします。私はYに誘われて覚せい剤の売人をやっていました。これまでに何度か、Yから紹介された人物に覚せい剤を売りました。」と供述した。Pは、この供述を内容とする供述調書を作成し、Xは、これに署名・押印した。  
その後、Pは、覚せい剤取締法違反（譲渡）の事実で、Xを起訴した。

〔設問〕

Xの公判における上記供述調書の証拠能力について論じなさい。

《問題2 以上》  
《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

不能犯と未遂犯に関する事案及び窃盗罪の保護法益に関する事案を素材として、法学部の刑法において学修する基本的な事項に関する正確な理解をみるとともに、事例処理能力を試すものである。

問題 2

本問は、利益誘導がなされた被疑者取調べの事案を通じて、自白法則の捉え方について問うものである。